ちば里山新聞

（第 69 号）
編集発行　NPO 法人ちば里山センター
袖ケ浦市長浦拓 2 号 580-148
☎　0438-62-8895
題　　字　倉島　貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

令和６年度ちば里山センター通常総会開催される！

特定非営利活動法人ちば里山センター通常総会が６月１２日（水）に開催されました。

ちば里山センター佐藤理事長挨拶

本年度の総会は、県下各地区より参加される会員の交通手段を考慮して、例年と異なり千葉県庁本庁舎２階の県民活動情報オフィス内ミーティングスペースにて開催しました。総会は 13 時半より来賓として千葉県森林課の佐藤哲也課長、田口満里奈主事にご臨席を頂き、佐藤課長から挨拶を頂いた後、審議に入りました。

森林課佐藤課長と田口主事

正会員総数８２団体で、出席者２３名、委任状提出者５０団体で定款２５条の定めにより総会の成立が確認され、議事が審議されました。

議長には「いすみ薪ネットワーク」の伊藤幹雄氏が任命されました。令和５年度の活動事業報告をプレゼン画面により佐藤理事長が報告、決算報告を伊藤副理事長が行い、参加者の挙手により承認されました。続いて令和６年度の活動事業計画案と予算案が審議され、これも挙手により議案書のとおり承認されました。

総会出席会員代表の皆様

意見、質疑では、事業報告の内容報告からもっと参加してみたい事業が多くあったので、Facebook、インスタグラム、Line などをよく利用する若い人たちへの IT 技術を使った情報提供を図って欲しい。また、学校や子供会が里山活動をするときに必要な子供用のヘルメット３０～５０個を借りたい事があったが可能でしょうか等の意見や質問がありました。

～総会後の会員親睦交流会にて～

終了後 15 時半より参加者会員全員で千葉市中央区にあるレンタル会議室へ徒歩で移動して、親睦交流会を軽食立食パーティー形式でおこないました。ここで、レンタル会議室の開錠キーの暗証番号の確認が出来るまで入室できなかったハプニングがありましたが、交流会が始まるとアルコールをいただき日頃の活動の様子や情報交換が活発に行われ、また、参加者一人一人がスピーチをする場面では日頃の苦労話や里山活動に対する想いを熱く語るなど楽しい雰囲気のパーティーでした。１時間半ほどの親睦会は無事に終わりました。その後も千葉市内で懇親を深めた会員もいたようです。

会員親睦会では多くの自慢話が

会員代表からのお話

※お知らせ※　ちばの里山整備ボランティア講習会　チェンソー入門講座　第１回：９月 21 日（土）　むつみの森/八千代市
第２回 10 月 26 日、第3回 12 月７日　チェンソー入門講座/実践編　きさらづ里山の会活動地
竹の伐採方法に限定した安全講習会　10 月 12 日（土）竹の駅ちょうなん/長南町

木製ジャングルジム「くむんだー」のくみ上げは楽しい 第１回ちば里山カレッジ

７月２１日（日）ちば里山センターが毎年行っている「ちば里山カレッジ」、今年の第１回は千葉県緑化推進拠点施設を会場に、講師３人から講演に木製ジャングルジムをくみ上げる実技を挟んだ構成で開かれました。

木製ジャングルジム（くむんだー）は子どもから大人まで楽しめるプログラムで千葉県産材のスギを利用した製品。柱、貫（ぬき）、くさびの３種類を組み合わせてジャングルジムをくみ上げていくもの。

受講生はヘルメットをつけ、ニックネームを書いたシールを貼り、講師の中村令子さんは、「大人と子どもの二つの役割をする」と伝えると、ウレタンマットを敷き詰めました。面喰う受講生を円座に座らせて、「これからみんなに聞くよ～」と子どもに問いかけるように始めました。「みんなの住んでいる市や町の木は知っている？」とクイズを何問か出題。続いて清水寺の写真を見せて、この清水寺の舞台は一本のクギも使わず組上げていることを伝えました。「その工法をこれから皆さんに体験してもらいます」と実技コーナーに移りました。

「森で育つ子供たち」の真鍋講師

柱にあいた穴に貫（ぬき）と称する横軸を通し「くさび」を打ち込む。この繰り返し。木筒を持つ人、くさびを入れる人、貫を通す人と役割分担がおのずとできて、３０分くらいで木製ジャングルジムが組みあがりました。完成すると受講生も誇らしげでした。

足をかけ乗ってみる。何人も乗っても丈夫だった。しかも四面から手を入れて持ち上げてみる。軽く持ち上がる軽さ。これが清水の舞台を支えているとは、と感慨深げでした。

「くむんだー」組上げ中

くみ上げた感想が漏れてきました。「くみ上げが簡単」「思ったより軽い！」、「細い柱でくみ上げられるとは意外」と思い思いでした。

次に木育玩具のごく一部を紹介していただきました。あちこちから「かわいい」の連発で、自分たちの幼児の時代と比較して、玩具の豊かさに目を奪われるようでした。

続く講義で中村氏は、「今、木育に求められるもの」として「ニッセの森」の森づくりやニッセの森での様々な体験活動、「ちばの木のおもちゃ」の取組等について紹介しました。小中学校、幼稚園、保育園とは少し異なるニッセのような子育てサークルが木育に出会って、取り組んでいくと、子から母、父親ものめりこんでいく姿が垣間見られ、こうした取り組みが全国で進むとよいと結びました。

完成後みんなでイェイー

第１回カレッジの第一部は、「ちばの森林環境教育のこれから」について、千葉県緑化推進委員会の西野文智専務理事が解説しました。アクティブラーニングの実践の場としての役割が改めて認識され、プレーパークや森のようちえんなどの場としての活用が広がっている点を紹介しました。加えて、里山の活用と保全活動のような管理の一体的取り組みの支援が求められている点も指摘しました。第二部は、佐倉里山自然公園で「森のようちえん　さくらんぼ」を主宰する真鍋弥生氏から、「森で育つこどもたち」についてお話がありました。野外で学ぶアウトドアラーニングのメリット、プレーパークの紹介、ベースとなる感覚機能の発達モデルに即した活動を紹介しました。

受講生からは里山活動と所有者の間をつなぐ行政の役割、森にくる子どもたちの安全管理の大事さ、異年齢集団の仲間づくり、学習における一次情報と二次情報の違いなどについて質問があり、講師、受講生間のコミュニケーションがワンステップ進んだ印象でした。

【第２回里山カレッジのご案内】９月 28 日（土）新京成線高根台公団駅徒歩１分高根台公民館

市原米沢の森にて「森づくり体験」

市原米沢の森を考える会鶴岡代表

梅雨明け間近の７月１５日（月）、市原米沢の森を考える会による今後の森づくり体験を目的とした研修会があり、里山センターから岡部理事などが講師として参加しました。近年、多くの森でナラ枯れ病によりコナラなどが枯れており、これらを伐採処理してその後にどのよう森を作り直していくかというテーマを、「米沢の森」で実際に考えようという趣旨の研修会でした。

ロープワークによる伐倒

午前中、岡部理事を講師に、枯れたコナラの大径木についてロープワークを用いて安全に伐倒する、実演を交えて講義が行われました。ロープワークを用いた伐倒の技術研修は既に里山センターで始めていますが、枯死木は、①幹の腐朽していない部分に確実に受け口を作ること、②枝の腐朽も進んでいるため、隣接木と接触して折れやすくなっていること、③根の支持力も弱くなっている可能性があることなど、ナラ枯れ木の場合はこれらにも注意することが重要であるとの説明がありました。

狙った方向に伐倒

午後は、遠藤講師からの「With ナラ枯れ から Post ナラ枯れへ」という演題で、ナラ枯れ病のメカニズム、最近開発された新たな防除方法、さらに枯死木処理後の森づくりの方法の話でした。

ナラ枯れ病について遠藤講師

新たな防除方法としては、カシノナガキクイムシ（病原菌の媒介虫）穿入孔に注入できる殺虫剤ができたこと、枯死木を林内に集積する場合の有効な処理として、枯死木を①長さ 10～30ｃｍに玉切りする、②材を８分割することで、伐採した枯死木の乾燥が進み木の中に生存するカシノナガキクイムシをある程度死滅させる効果があるそうです。また、枯死木処理後の森づくりでは、種から苗木を育てたり、森の中の実生を生かして、生物多様性に貢献する森づくりの提案がありました。

不安定なこの時期の天気で一日順延となっての開催でしたが、スタッフ含め総勢２３名が参加し、ナラ枯れ後の広葉樹の森の再生のために有意義な研修でした。

身近な森から生物多様性の森へ

前回の里山新聞で、「多様な広葉樹苗づくりが始まりました」と紹介しましたが、種を採って集めて保存し、それらから苗木を作って、里山に植栽する、すなわち市民参加による 30by30 への貢献として、この一連の活動を里山センターで「千葉県由来の苗木育成プロジェクト」と位置づけ取り組むことになりました。

コンテナ容器で育苗するヤマグリ
手前は発芽しなかったマルバチシャノキ

今年は種を蒔くのが遅れたりして、発芽の悪い樹種もかなりありましたが、これも貴重な経験だったと考えています。今年の秋も種を集めて保存し、来年も種を蒔いて苗つくりを続けていく予定です。皆さん、種集めと苗木つくりを引き続き一緒に進めませんか。

※30by30：2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。

里山じまん　⑯
ユーカリ木こり倶楽部

ユーカリが丘祭りの中心で竹炭を作り祭りを盛り上げる

佐倉市のベッドタウンであるユーカリが丘を拠点とする当倶楽部の活動は、このノルディック・ウォークで歩くことから始まりました。運動不足回避、健康寿命延伸目的で２本のポールを持って歩きに行く先は・・・街と隣り合わせの里山です。

竹炭の取り出し

最初は「こんな身近な場所でも自然がいっぱいで癒されて気持ちいい！」などと言っていたのですが、そのうちに過疎化が進み人の手が加わらなくなって荒れている里山の実状、繁茂し過ぎる竹が危機的であることなどを知りました。「街の人のエネルギーが隣の里山を救うかも」と考え、まずは竹伐採により塞がっていた古い道を切り拓いて復活させ、ノルディック・ウォークの道を整備するところから始めてみました。里山地域の農家さんなどとも繋がり、私たちが伐採した竹も炭になって既に田や畑の土壌改良に活用されています。

多くの女性も参加した安全講習会

共催仲間と一緒にやらせていただく竹炭作りイベントも年３回ペースで続いており、今では１回のイベントで出来る竹炭も２トン以上、炭素貯留による CO2 削減量も４トン以上（イベント実施に伴う CO2 発生量控除後）の規模に。もしかしたら「街のエネルギーが地球も救うかも」。里山を歩き続け、今後は更に竹や間伐した木の出口開発を進めるユーカリ木こり倶楽部を応援してくださいますよう、よろしくお願いいたします。

ユーカリ木こり倶楽部　南條　光宏

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

つれづれごと

里山新聞を年６回発行すべく、周りからの叱咤激励を浴びながら原稿集めに走り、なんとか期日までに完成を目指しております◆これからは活動報告だけでは無く会員のじまん話などを特集したいと思いますので、我と思わん方は原稿をお寄せくださるようお願いいたします。（Y.A）

里山の風にゆられて ㉔

ノカンゾウ<野萱草>ユリ科ワスレグサ属

カンゾウ（萱草）とは中国を原産とし、「萱」は中国で忘れるという意味で、その美しい花を見れば憂いを忘れるということで、日本ではカンゾウ、ノカンゾウ、ヤブカンゾウなどをまとめてワスレグサと呼んでいるようです。本種はカンゾウに似て野に自生することからノカンゾウと呼ばれている。

写真・文　赤松義雄　R6.6.30　袖ヶ浦市椎の森

入会申し込み・問い合わせ先
特定非営利活動法人　ちば里山センター
〒299-0265 千葉県袖ケ浦市長浦拓２号 580-148 ☎0438-62-8895　FAX0438-62-8896(平日 9:00～17:00)
E-mail info@chiba-satoyama.net　ホームページ　http s://chiba-satoyama.net/